# 農業を未来につなぐ

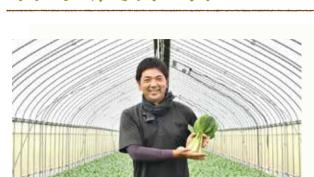
## 若手農業者にインタビュー

な暮らしが共存するまちです。 地域の暮らしを支え、地域の魅力をかたちづく

る農業の未来を若手農業者の皆さんと考えます。

越谷市は、豊かな自然や農業と都市近郊の便利

間農業振興課☎963-9193



#### 代々続く農家を継ぎました、 課題は担い手不足

曽祖父から続く農家で生まれ育ちました。家業を 継ぐことを意識したのは、中学生のときですかね。 農業に関する専門知識や技術を学べる高校に進学し たんです。農家の跡継ぎとして期待されているプ レッシャーは感じていました(笑)。小松菜と米の栽 培をしていますが、自分で考えて工夫しながら、よ

り良いものを作ることに魅力を感じます。

地域の農業の課題は、担い手不足なんです。どこ も後継者問題を抱えていて…、子どもたちには、農 家の跡継ぎというプレッシャーを与えたくはないん ですよ。

現在は、若手農業者で構成する「越谷市グリーン クラブ」の会長として、田んぼアート事業への参加 のほか、「越谷市民まつり」や、「こしがや産業フェ スタ」に出展するなど、農業を通じた地域交流・地 域振興に取り組んでいます。

#### ゼロからのスタートで、 地域の農業を盛り上げたい

kak (ま ょしゅき 大熊 良幸 さん(42歳

農業とは全く縁がありませんでしたが、妻がた またま農家の娘だったことが就農のきっかけで す。(新坂さん)

農業に興味があり、農業高校、農業大学校を卒 業し、研修でお世話になった二イザカファームに 就職しました。(村山さん)

コシヒカリをはじめ、7種類のうるち米と太郎



兵衛もちなどのもち米を生産しています。トラク ターなどの農業機械を自分で整備して操作するの は楽しいですよ。田んぼの管理や病害虫の防除 は、衛星画像とAIを組み合わせたパソコンソフト やドローンなどを活用しています。

食を支えることで誰かのためになっているとい う、やりがいを感じますね。地区センター・公民 館での米作り教室や、市内中学校の生徒を対象に した稲刈り体験など、地域の皆さんが農業に触れ る機会も提供しています。

#### 農業という仕事の質を 向上させたい

もともとは住宅の基礎を作る仕事をしていまし た。この畑で採れた、ほうれん草のおいしさに感 動したことが農業を始めた動機の1つです。ねぎ や小松菜などを栽培していて、日々食べるものを 作ることに魅力と誇りを感じています。農業の醍 醐味は、自分自身で納得できるまで没頭できるこ

とだと思います。

これからの農業には、経営の視点が必要になる ので、雇用する従業員とのコミュニケーションを 図り、朝礼や作業後の打ち合わせの時間を大切に しているんです。意外かもしれませんが、週ごと に計画を立て、一人一人が自分で考えて作業でき るよう心がけています。効率や効果も考えて仕事 の質を向上させていきたいと考えています。

地域の皆さんには、地場の新鮮なおいしい野菜 を食べてもらいたいですね。



### 越谷いちどと越谷スカイメロン



いちごの食べ比べができる首都圏最大級の観光農園 「越谷いちごタウン」では、人気のあまりんをはじめ、 紅ほっぺや、かおり野など、いろいろな品種が楽しめ ます。令和5年には「越谷いちごみらい園」がオープン し、現在、市内では8カ所の農園でいちご狩りが楽し

越谷スカイメロンは、いちごに続く新たな農産物の 生産を支援するため、平成30年より試験栽培を始めま した。水耕栽培で育ったメロンは、さわやかな甘さが 特徴で、農業技術センターと出羽地区の農園で栽培し

若い担い手や新規の農業参入に向けた取り組みとし て注目を集めています。





#### いちごの生産者さんに伺いました

巾のいちこ生産者育成事 業の1期生で、越谷いちご タウンの開園から、日々お いしいいちご作りに取り組 んでいます。

4、5種類の品種を味わえ るのが魅力で、ハウス内は バリアフリー化しています ので、車いすやベビーカー でも楽しめます。



越谷いちごタウン 前田 寿樹 さん(45歳)

越谷スカイメロンについては、今号14面でさらに詳しく紹介しています